

3 強度行動障害のある児童・生徒への各場面での適切な指導

(1) 学習指導における留意点

ア 通常の授業における留意点

(ア) 言葉掛けの配慮

授業における言葉掛けは、児童・生徒自身が「分かって動ける」ものであることが大切です。

通常の授業では、まずは視覚情報で示すことを優先させ、その後に、児童・生徒自身が「分かって動ける」言葉掛けをするといった、「児童・生徒のもっている力を最大限生かす」配慮が大切です。児童・生徒にとって分かりやすい視覚情報の提示や言葉掛けを行うことが、望ましい行動を育て、問題となる行動を減らすことにつながります。

a 行動のきっかけとなる言葉掛け

行動のきっかけとなる言葉掛けとは、行動を促す言葉掛けのことです。

児童・生徒が確実に「分かって動くことのできる」ようにするため、「短く」、「明瞭に」、「具体的に」伝えることがポイントとなります。

逆に、抽象的、間接的な言葉掛けでは、児童・生徒にとって「何をすればよいのか理解できない」ことにつながってしまう可能性があります。

抽象的、間接的な言葉掛けの例	具体的な言葉掛けの例
<ul style="list-style-type: none">次は何をする時間ですか水分補給の時間ですよ早く書きましょう	<ul style="list-style-type: none">次は音楽の授業です。音楽室へ行きましょう水筒を持ってきて水を飲みましょう鉛筆を持って好きな動物の名前を書きましょう

b 行動の手掛かりとしての言葉掛け

行動の手掛かりとしての言葉掛けは、行動が十分に定着していない時に、ヒントや手掛かりとして示す支援のことです。

過剰に行動の手掛かりとしての言葉掛けをすることで、児童・生徒の自発性を損ね、受け身の状態につながらないよう配慮が必要です。

児童・生徒の実態に応じて、背中に触れて促すなどの身体的なガイドや、見本の提示、指差し等を併用したり、児童・生徒が気持ちを切り替えて自発的に行動を起こすまで待ったりすることも有効です。ただし、感覚的に過敏な状態にある児童・生徒もいるので、背中に触れて促すなどの手段を用いるときは、注意が必要です。

手掛かりとなる言葉掛けの例	身体的な支援の例
<ul style="list-style-type: none">手をゴシゴシしましょう(手洗い)次はあっち(体育館)ですよこの材料をここに貼り付けます	<ul style="list-style-type: none">流し台を指差す手をこする仕草を見せる行く場所(体育館)を絵で見せる作業の完成見本を示す

c 望ましい行動を増やすための言葉掛け

望ましい行動を増やすための言葉掛けとは、望ましい行動を定着させるための肯定的な言葉掛け（褒めること）です。本人にとって好ましい経験（褒められること）が得られることによって、望ましい行動を増やす働きがあります。児童・生徒へは、指導者の言葉掛けに対して、自らの行動が適切であったことが分かるように即時に言葉掛けを行い、体験的な理解を促すことが大切です。

ただし、ただ肯定的な声掛けをするだけでは、社会性に困難を示す児童・生徒にとって、行動の定着につながらないことも考えられます。言葉掛けに併せて、好きな物や活動が得られる経験を得られるようにすることも、望ましい行動を育む上では有効な場合があります。

望ましい行動を増やすための褒め方としては以下の点が必要です。

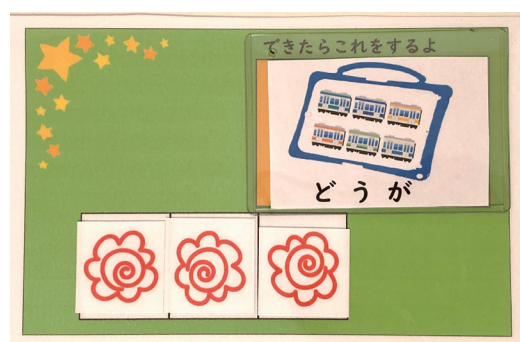
- ・指示は平常時の声や表情で行い、褒める時は笑顔で声のトーンを上げる
- ・肯定的な言葉を複数用意し、心を込めて伝える
- ・できている行動よりも、まだ十分に定着していない行動ができた時、より大きく褒める

逆に、嫌悪的な反応を引き起こしやすい言葉を把握し、否定的な言い方を避けた伝え方を工夫することも大切です。「ダメ」、「〇〇しません」等の言葉掛けは、児童・生徒に「叱られる」と思わせ、不適切な行動を引き起こすきっかけとなることがあります。

(イ) 行動の定着のための評価の仕方

望ましい行動の定着を図るためには、行動することで本人がよかったと実感できる結果が伴う必要があります。行動の直後に即時に褒める言葉掛けをして、評価することが大切です。また、褒めることに加えて、学習場面では、決められた目標を達成するとポイントが得られ、欲しいものや本人が好きな活動が得られるようにすることも有効な場合があります。

事前にルールとして、ポイントが得られる条件や、いつ交換するのか等を示し、導入時は少数のポイントで交換できるようにすることで、体験的に分かるように伝えることが有効です。



《ポイントの提示例》

(ウ) 一貫した指導体制

指導者による関わりの違いによって、児童・生徒が混乱を生じないようにすることが重要です。

安心して関わることのできる指導者を核として、指導者間で児童・生徒の状況や指導方針を共有し、段階的に他の教員との関わりを広げていくことが大切です。

- ・その日の体調 ・児童・生徒が分かりやすい言葉掛けや手掛かり
- ・苦手な事柄や行動のきっかけとなること ・問題となる行動が生じた時の対応

(エ) 教材の工夫、提示の仕方、配置

強度行動障害のある児童・生徒の指導では、個別の実態に応じて教材や配置等の環境設定を行うことが重要です。また、本人にとって、見通しをもって過ごせる場面を増やすことができるよう、効果的な手立てについては、家庭や地域の福祉サービス間で共有することも大切です。

(オ) 板書の仕方

板書では、児童・生徒が理解できるイラストや画像等を用いることで「何をすればよいか」分かるよう提示することが大切です。

- ・コントラストの明瞭な色を使用
- ・時系列で「上から下」、「左から右」で示すなど、同じ方法で板書
- ・全体説明は必要最小限にし、個別の実態に応じて画像やイラスト等を活用

(カ) 苦手な活動を行う際の配慮

苦手な活動を行う際は、本人の体調にも配慮し、保護者と方針を共有した上で、課題の難易度を下げたり、量を調整したりするなど、苦手さを軽減する工夫をしたり、活動の見通しをもたせたりすることが有効です。

段階的に指導することで、苦手な活動にも参加できるようにしていくことが大切です。

- ・課題の難易度を下げる
- ・1回当たりの課題の提示量を減らす
- ・休憩を挟んで複数回に分けて取り組む
- ・段階を分けて目標設定を行い、達成可能なものから取り組む
- ・目標の定着を確認してから、次の段階に移行するスモールステップで指導
- ・事前に活動内容や終了の目安を示す
- ・視覚的に分かりやすい絵や図、写真などを用いて伝える
- ・課題自体を好みの順番で行うことができるよう選択させる
- ・調子が悪い時に備えて落ち着いて過ごせる場所を確保しておく

(キ) 本人が苦手とする他の児童・生徒との関係に係る留意点

本人が苦手とする児童・生徒との関わりについては、何が苦手なのかを把握し、保護者と方針を共有した上で、段階的に関係づくりを支援することが大切です。

例えば、他の児童・生徒の大声などの音声なのか、相手との関わり方なのか等を把握した上で、物理的に座席を離すなど、環境の調整を図ることが有効です。

また、中・長期的には、本人が好きな活動を行っている時に、短時間一緒にそばで過ごしたり、一緒に活動したりする機会を設けることで、苦手意識を段階的に軽減することができるように指導していくことが効果的です。



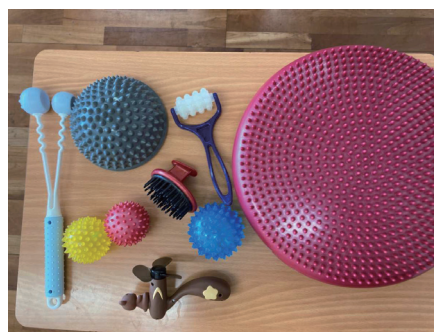
《座席配置に配慮した例》

(ク) 本人が実行可能な代替行動の獲得について

問題となる行動を減らすためには、本人の行動の目的を的確に把握し、その代替となり、より社会的に許容される行動を獲得できるように、保護者と方針を共有した上で、指導を行うことが重要です。

例えば、感覚刺激を得たくて自傷行為をしてしまう場合などは、教員が児童・生徒に、感覚刺激の代替となりうるグッズを利用させてみることも有効な場合があります。

また、児童・生徒が問題となる行動をしていない時に、指導者が短時間でも一緒に児童・生徒のしている行動をしたり、言葉掛けをしたりすることも有効です。



《触ったりして感覚刺激の代替となりうるグッズ》

イ 学校行事の実施に係る留意点

(ア) 事前学習の工夫

学校行事は、普段の学校生活の延長にある、日頃、体験できない教育活動を行い、行事に向けての準備の中で、仲間との協力や目標の達成を経験できる点で重要な教育活動です。

しかし、普段の学校生活のルーティンと異なるため、児童・生徒にとって見通しがもち難いことに留意が必要です。

(イ) 見通しのもたせ方

児童・生徒の不安や緊張が生じることが予測される場合は、行事の中で本人の好きな活動までの見通しをスケジュールで視覚的に示すことや、見通しをもてずに不安やストレスをつのらせている児童・生徒の場合は、気持ち切り替えるために、適切なタイミングで休憩の機会を設定するなどの配慮が必要です。

児童・生徒が見通しをもてるようにする方法としては、事前に活動の内容や終了の目安を伝える工夫が考えられます。

また、活動内容に変更がある場合は、事前にそのことを伝えておくことも大切です。



《修学旅行の一日の行程をカードで示した例》

(ウ) 参加の方法

児童・生徒が安心して関わることのできる指導者と参加することが大切です。

行事全ての参加が難しい場合は、保護者と方針を共有し、個別指導計画にも記載した上で、部分的に分けて参加し、参加できる場面を段階的に増やせるように計画していくことが考えられます。

また、苦手な対象を把握し、学習に参加しやすいように環境調整を行うことも有効です。

例えば、大きな音が苦手な児童・生徒が徒競走に参加しやすいよう、ピストルに代わり旗を使用する工夫が考えられます。



《運動会でピストルに代わり旗を使用》

(2) 学習指導以外の時間における留意点

ア 適切な排せつに向けた留意点

(ア) トイレの場面

トイレでの排せつ指導では、保護者の同意を事前に得て、個別指導計画にも記載した上で指導を行うことが重要です。

排せつ時の流れのように連続した一連の行動を指導する際は、一つ一つの行動を具体的にステップ分けし、これらの行動のうち、支援が必要な部分（定着していない部分）のみを介助することが大切です。

【例】

- ①教室を出てトイレへ行く
- ②トイレのドアを開け個室に入る
- ③着衣(下半身)を下げる
- ④立ち上がり着衣を上げる
- ⑤流す
- ⑥個室を出て手を洗う
- ⑦教室へ入る



自発的にできた際はその場で即時に褒める言葉掛けをし、排せつ行動の定着を促すことが有効です。

また、排せつ時間や水分の摂取時間等を記録することで、排せつが成功しやすいタイミングを把握することが大切です。

排せつの失敗が継続する場合は、まずは排せつの間隔を把握し、一定の時間に排せつを促すようタイミングを調整します。また、どんな場面で失敗が起きやすいのか、失敗した際の教員等の対応により、例えば教員の注目を得ることができた、教室の外に行くことができたなど、何らかの本人の目的が達成できたのではないかと、という視点も重要です。

排せつを失敗しなくても、より容易に同等の目的が達成できるように環境調整を図ることで、望ましい行動を身に付けられるよう、指導していくことが大切です。

(イ) トイレ以外の場面

着替えや手洗いなどの場面についても、失敗が継続する場合は、その結果、どのようなことが結果として起きたのか、どのようなことが本人にとっての目的であったのか分析を行い、その内容に応じた対応を進めていくことが重要です。

本人が行動によって得ようとしている結果の代替となり、より社会的に許容される行動の獲得を指導していくことが大切です。

イ 偏食への対応

偏食への対応においては、まず、家庭とも連携し、個別指導計画に記載した上で、現在、食べることのできる食材や苦手な食材、「誰と」、「どのような順序で」食べているのかを把握することが大切です。

対応に当たっては、既に食べることができている食材を手掛かりとしつつ、スモールステップで、食べられる食材を増やせるように指導することが有効です。



- ・新規食材を少量食べたら、好きな食材が食べられることを視覚的に示す
- ・負荷の少ない量から、好みの食材の前に順番を選択する機会を設ける

一方、苦手な食材を無理強いすることは嫌悪的な反応を引き起こしやすく、偏食が広がるなどより深刻化するおそれがあります。本人が受け入れ可能な量や食材から取り組むことが重要です。

健康面での影響について、養護教諭や主治医・保護者と、事前に相談しておくことも大切です。

事例①（小・中学部）

基本情報	Aさん、小学部、愛の手帳2度、自閉症	
コミュニケーション手段	発語なし たまたに、相手の手を引いて要求する“クレーン現象”やジェスチャーで意思表示をする。	
問題となる行動の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自傷 <input checked="" type="checkbox"/> 他害 <input checked="" type="checkbox"/> 激しいこだわり <input type="checkbox"/> 器物破損 <input checked="" type="checkbox"/> 偏食 <input type="checkbox"/> 排せつ関連 <input checked="" type="checkbox"/> 多動 <input type="checkbox"/> 大声を出す	
問題となる行動の詳細	<ul style="list-style-type: none"> ・頭突きをする。殴る。引っかく。 ・教員の腕に痣ができたり、引っかき傷は皮がむけ、血が出たりする。 ・異食（紙、植物、粘土、ペンの芯）、大量に水を飲み嘔吐する。 ・液体に強いこだわり（水道、便器、アルコール、虫よけ、プール、水たまり）できないときは唾液を飛ばして遊ぶ。 	
考えられる原因	<input checked="" type="checkbox"/> 要求 <input type="checkbox"/> 注目 <input type="checkbox"/> 逃避 <input checked="" type="checkbox"/> 感覚 <ul style="list-style-type: none"> ・生理的不快時や見通しがもてない。好きな活動の少なさによる水へのこだわり ・見通しのもちにくい活動による不安感により、問題となる行動が生じている。 	
指導方針	・児童が理解しやすい方法で、見通しをもたせるための指導を行う。	
指導・支援内容とその結果	指導・支援内容	結果
	<p>○ 授業の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じルーティンや内容の授業を繰り返し行うことで、一日の流れを崩さないように工夫した。 ・場所や音楽などとこれからの活動を結び付け、児童に伝わりやすいように工夫した。（例：体育館にきたら体育をする。この曲が流れたら〇〇をする。） <p>○ 教材の提示方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イラストや写真などで、視覚的に提示した。 ・プレゼンテーションソフトで動きのあるスライドを作り、TV画面に投影し提示した。 <p>○ 学校行事の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別のスケジュールを作成し、行事の終わりを視覚化できるようにした。 ・保護者に方針を共有した上で、社会科見学の前に、見学先の写真を示し、活動内容の説明を行った。 ・言葉や写真ではなく、動画により見学先や活動内容について事前学習を繰り返し行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の見通しをもつことができ、落ち着いて授業に参加できた。 ・先の見通しをもち、課題に取り組む姿勢が見受けられた。今後は、取り組む課題や教材の種類を少しずつ増やしていく予定である。 ・認知できなかった。 ・自分から画面を意識して注目することができた。 ・行事の終わりまで我慢できず、不穏になってしまう。 ・児童が注目できず、効果が得られなかった。 ・注目を促すことができたことで、少しは見通しをもって参加できた。

指導・支援内容	結果
<p>○ 安心感の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒と信頼関係のある教員をそばに配置した。 ・感覚遊びのおもちゃを使用した。 <p>○ 唾液遊び（代替行動の獲得）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルコールジェル ・アルコールスプレー ・手洗い ・「唾液遊びをしていい場所や時間」などの「決まり」を設定し、視覚的に表示した。 ・保護者の了承を得て、個別指導計画に記載した上で、授業中に唾液遊びを抑えられない場合に手袋を着用するようにした。物理的に唾液遊びをできない環境を作ることで、「決まり」を分かりやすくした。 ・放課後等デイサービスでも唾液遊びが頻繁に発生していたため、学校での手袋の着用タイミングや関わり方を共有した。 ・児童が混乱しないように、常時手袋の着用を試みた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動中に怒り出しても、気持ちを立て直すことができたようになった。 ・不安感を紛らわすことができた。 ・常に欲しがり、貰えないと他害や唾液遊びをするようになった。 ・満足できるようになった。 ・休み時間中のトイレで欲求を満たせるようになった。 ・唾液遊びの欲求を抑えることはできなかった。 ・毎日繰り返しやり取りすることで、手袋を提示すると、自分から手を出し、「唾液遊びをする」と手袋をつける」ことを受け入れ、着用時は遊ばなくなった。 ・放課後等デイサービスでも必要に応じて手袋を活用し始めている。状況の共有を継続して、活用を促す予定 ・自閉症の特性として、「あやふや」が混乱を招くため、手袋を付ける時、付けない時がなるべくないようにした。手袋が汚れたり濡れたりした時に新しい手袋に付け替え、常時着用を習慣化することができた。「手袋は付けるもの」と定着し、唾遊びがほぼなくなった。

事例② 学習指導（高等部）

基本情報	Bさん、高等部、愛の手帳2度、自閉症	
コミュニケーション手段	発語なし。ごく日常的な言葉は理解できる。 選択肢を示すと指先応答できる。	
問題となる行動の種類	<input type="checkbox"/> 自傷 <input checked="" type="checkbox"/> 他害 <input type="checkbox"/> 激しいこだわり <input checked="" type="checkbox"/> 器物破損 <input type="checkbox"/> 偏食 <input checked="" type="checkbox"/> 排せつ関連 <input type="checkbox"/> 多動 <input type="checkbox"/> 大声を出す	
問題となる行動の詳細	<ul style="list-style-type: none"> ・水への強いこだわり ・食器を投げる。食缶をひっくり返す。容器の蓋を開けて液体を床に流す。 ・机を倒す。 ・便をこねる。オムツに手を入れて便をいじる。 	
考えられる原因	<input type="checkbox"/> 要求 <input checked="" type="checkbox"/> 注目 <input type="checkbox"/> 逃避 <input checked="" type="checkbox"/> 感覚 （わざと周囲の愛情（許容度）を試す“お試し行動”、感覚遊びなど） 周囲の反応が楽しい。または、相手の注意を引きたくて起こしている。	
指導方針	<ul style="list-style-type: none"> ・注目要求の代替スキルとして「肩を叩いて呼ぶ」ことを練習する。 ・常に教員がそばにいて見守るようにする。 ・行動記録をつけ、保護者にも家庭の状況の共有を依頼する。 	
指導・支援内容とその結果	指導・支援内容	結果
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の見通し・動機付け <ul style="list-style-type: none"> ・本人の不安や緊張を軽減し見通しがもてるように、絵カードなどを用いて授業内容（授業の流れ）を提示した。学習への意欲・動機付けを高められるように、達成したこと、できたことが本人に分かる課題設定にした。 ○ 環境設定 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者了承の上、視覚刺激が遮断できるよう、教室の一角（壁とロッカーで3面囲まれた場所）に他の生徒と離れた席を設け、開いている1面には、可動型のパーティションを設置。生徒の机は倒しづらい「養護机」を使用した。 ○ 行動記録 <ul style="list-style-type: none"> ・行動記録（不穏や排便など）により、行動の原因の分析を行った。 ・ズボンに手を入れる動作を発見しやすい工夫を行った。記録を基に、排便の状況を踏まえた言葉掛けを行った。 ・担任を呼びたい時は、肩を叩くよう促した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題となる行動がなくなり、安定して授業に参加することができるようになった。個別課題については、4種類程度の課題に自律的に取り組むことができるようになった。 ・環境設定をしたことで、他の生徒への他害行動や机倒しが減少した。（特別教室でも、教室に準じる座席環境をできる限り整えた。） ・午後に出現しやすい傾向が分かり、本人の様子を見て必要な時は別の場所で休憩を取らせた。 ・便をいじる行動を未然に防止できた。学校での排尿後に言葉掛けで排便が成功することもあった。 ・問題となる行動が減少した。

事例③ 学校行事（高等部）

基本情報	Cさん、高等部、愛の手帳2度、自閉症	
コミュニケーション手段	発語はほとんどない。 サインあり（要求：指差し、カード 拒否：指で× トイレ：胸を叩く）	
問題となる行動の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自傷 <input checked="" type="checkbox"/> 他害 <input checked="" type="checkbox"/> 激しいこだわり <input checked="" type="checkbox"/> 器物破損 <input type="checkbox"/> 偏食 <input type="checkbox"/> 排せつ関連 <input type="checkbox"/> 多動 <input checked="" type="checkbox"/> 大声を出す	
問題となる行動の詳細	<ul style="list-style-type: none"> ・強くつねる。爪を立てる。噛む。蹴る。髪を引っ張る。 ・大声で叫び続ける。寝転ぶ。物を蹴る。投げる。倒す。 ・目を離すと走り出す。椅子に10分と座ってられない。 ・（校外活動時）エスカレーターへの強いこだわり 	
考えられる原因	<input checked="" type="checkbox"/> 要求 <input type="checkbox"/> 注目 <input checked="" type="checkbox"/> 逃避 <input type="checkbox"/> 感覚 （見通しがもてない。待たされた。他生徒との接触が苦手 など） 意思を伝えられることもあるが、受け入れられない時に感情がコントロールできない。	
指導方針	<ul style="list-style-type: none"> ・時間割や予定カードを使用して視覚的に見通しを示す。 ・他害や大声を出す状況になった場合は、周囲の安全を確保し、見守る。 ・落ち着かない状態が続く場合は頓服薬を服用する。 	
指導・支援内容とその結果	指導・支援内容	結果
	<p>○ 修学旅行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別に1日ごとの行程表を絵カードにして持ち歩き、終わったらはがしていくようにした。 ・タブレット端末のタイマー機能で終わりを視覚的に示すアプローチを検討中である。 <p>○ 体育的行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別に参加する競技のみの行程表を作成した。参加方法について保護者と方針を共有の上、練習して見通しをもてた学年競技のみ参加とした。 ・「挨拶までしたら終了」と言葉掛けをした。 <p>○ 生徒集会など不定期なイベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見通しがもちにくいいため、本人の様子に応じて参加せずに教室に戻り、個別に対応した。また、部分参加するなどの対応をとっている。 <p>○ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的にも、他の生徒とは常に一定の距離を保って活動している。 ・不穏時は、一人になれるスペースに移動してクールダウンする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね納得して行動できるが、待ち時間に怒り出すことがあった。 ・落ち着いて取り組むことができるようになってきた。 ・見通しをもたせることができた。 ・参加することができたが、自分の出番が終わると早く帰りたくなり、不穏になりかけた。「○○したら、○○」の言葉掛けによって最後まで参加できた。 ・部分的に参加できるようになった。 ・他の生徒への他害行動等を未然に防ぐことができています。 ・一定時間で落ち着き、活動に戻ることができた。

事例④ 学習指導以外の場面（高等部）

基本情報	Dさん、高等部、愛の手帳2度、自閉症	
コミュニケーション手段	基本的になし たまに、クレーン現象で意思表示をする。	
問題となる行動の種類	<ul style="list-style-type: none"> ■自傷 ■他害 ■激しいこだわり ■器物破損 ■偏食 ■排せつ関連 ■多動 ■大声を出す 	
問題となる行動の詳細	<ul style="list-style-type: none"> ・目つぶし。鼻を殴る。物を投げる。殴る。蹴る。 ・机を倒す。 ・嘔吐しながら廊下を歩く。誤飲 ・失禁、放尿 	
考えられる原因	<ul style="list-style-type: none"> ■要求 □注目 □逃避 □感覚 (不安、コミュニケーション手段のなさ) 思いが伝わらない。見通しが外れた時もあるが、単純な不快感や疲れの場合もある。 	
指導方針	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と長期目標やスモールステップでの短期目標を共有し個別指導計画に記載 ・絶対に叱らない。 ・不要な介助はしない。 ・一度決めた約束は徹底する。 	
指導・支援内容とその結果	指導・支援内容	結果
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 着替え（環境設定の見直し） <ul style="list-style-type: none"> ・更衣室→教室のついたて内での着替えに変更した（実態に応じた目標設定）。 ・服はハンガーにかけける方式で指導した。 →着替えはかごから出し、入れるだけに。 ・できるようになったら、着衣をたたんでカゴをロッカーに入れさせるよう指導した。 ○ 朝体育への参加 <ul style="list-style-type: none"> ・準備運動はラジオ体操でなく、教室でバランスポールに変更→ランニングと一緒に（※本人ができる運動で代替） ○ 嘔吐（昼食時） <ul style="list-style-type: none"> ・残してもいいんだよと指導した。 ・教室での昼食。保護者了承の上、目の前で最初から量を減らした。机の上に給食を置き無理強いしない。最初は下膳もさせない（不安定な時は別室で昼食）。 ○ 睡眠が不安定（家庭等） <ul style="list-style-type: none"> ・教室を構造化。後ろにマットを用意し、休憩（睡眠）の選択肢を与えた。 ・休憩中も授業の様子を見せ、意欲喚起 ○ 係活動 <ul style="list-style-type: none"> ・本人ができる単純作業を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の生徒の存在が刺激だった。 ・情緒が安定し、1年ほどで落ち着き更衣できるようになった。 ・失敗を恐れストレスになっていた。（手先が不器用） ・ハンガーにかけなくてよくなり、指導水準どおり更衣することができた。 ・可能な代替運動をこなし、その後他生徒とランニングに参加するようになり、成功体験を得た。 ・食べて嘔吐（最初は過敏を疑う） ・減らされたことを最初は怒っていた。 ・自ら残すようになった。残せるようになってから嘔吐なし。 ・最後は一緒に下膳できた。 ・不安定な状況では自傷他害につながるがあったが、別室での昼食は効果的であった。 ・休憩回数は減っていき、自ら授業に戻れるようになった。 ・成功体験を重ねることができた。

事例⑤ 学習指導以外の場面（小・中学部）

基本情報	Eさん、中学部、愛の手帳2度、自閉症	
コミュニケーション手段	発語なし 意思表示アプリの使用。指差し 教員の手を引く。	
問題となる行動の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自傷 <input checked="" type="checkbox"/> 他害 <input checked="" type="checkbox"/> 激しいこだわり <input checked="" type="checkbox"/> 器物破損 <input type="checkbox"/> 偏食 <input checked="" type="checkbox"/> 排せつ関連 <input type="checkbox"/> 多動 <input checked="" type="checkbox"/> 大声を出す	
問題となる行動の詳細	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場所・時間等を問わずに、嘔吐（栄養失調で体力低下） ・ 指の爪やささくれを血が出るまで剥く。血を教員や壁に塗る。 ・ 便がオムツに出た際、壁や人に便を塗る、便を踏む、便をこねる。 ・ 座り込み、その場から動けない。 	
考えられる原因	<input checked="" type="checkbox"/> 要求 <input checked="" type="checkbox"/> 注目 <input checked="" type="checkbox"/> 逃避 <input checked="" type="checkbox"/> 感覚 本人が気持ちをこちらに伝えるための手段となっているのではと分析	
指導方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者等と情報共有。発生場面、方針などを検討・共有し個別指導計画に記載 ・ コミュニケーション手段の獲得の練習や代替行動を試す。 ・ 改善しない場合、教育活動との折り合いがつく行動への転換を促す。 	
指導・支援内容とその結果	指導・支援内容	結果
	<p>○ 嘔吐</p> <p>①絵カードや本人が好きな意思表示アプリなどコミュニケーション手段を増やした。</p> <p>②嘔吐後、注目をせずにそのまま過ごした。</p> <p>③他の好きなこと（タブレット端末や給食の絵カード等）に、注意関心を向けさせた。</p> <p>④吐く場所（バケツ）を決めた。</p> <p>⑤昼食後の嘔吐も含めた順番を決めた。 蓋つきのバケツに替え、自分で蓋を閉め嘔吐の終了を決めさせるようにした。</p> <p>○ 便こね</p> <p>①別のおもちゃなど感覚遊びを提案した。</p> <p>②トイレのシャワー室に誘導し排便させた。</p> <p>○ 自傷</p> <p>①教員とミニゲームをするなど、待ち時間や隙間時間を極力なくした。</p> <p>②他の好きなことに注意関心を向かせた。</p> <p>③保護者了承の上、絆創膏やテーピング</p> <p>④自傷行為に関して触れずに過ごした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほぼ授業に出られず ビニールシート設置 ・ 改善せず。 ・ 改善せず。 ・ 改善せず。 ・ バケツで吐くようになった。タイマーも試す。 ・ 時間と場所のコントロールができ、ルーティンとして定着。授業に出られるようになり、長時間の嘔吐はなくなってきた。 ・ 改善せず。 ・ 1度だけ自ら行くことができた。 ・ 他児より体力がないため、増やした休憩時間に自傷が増えてしまった。 ・ 時間がたつと自傷を再開した。 ・ 剥がしたが、徐々に剥がさなくなった。 ・ 徐々に少なくなってきた。